



「比和自然科学博物館だより」として、新情報や収蔵展示資料の紹介などをしていきます。紹介した展示資料が館内のどこにあるのか、探してみると楽しいですよ！

※展示標本と写真の個体は同じではない場合がありますので、ご了承ください。

今月の推し虫

和名:カメノコテントウ

学名: *Aiolocaria hexaspilota*

テントウムシとしては大型で、広島県内で見られるテントウムシでは、ハラグロオオテントウと本種が最も大きく、1センチ余りの体長があります。カメノコテントウは、光沢のある黒地に朱色の紋のある上翅と、前胸背(頭と上翅の間の部分)の両側に黄白色の紋が目立ちます。

紋の形や大きさは少しずつ変化があります。その大きさと紋から、他のテントウムシとの区別は簡単です。

一方、ハラグロオオテントウは、明るい橙黄色の地に、小さな黒く丸い紋が、上翅に両方合わせて14個、前胸背に2個あります。一般的なテントウムシのイメージにより近いでしょう。

似た名前前のテントウムシにヒメカメノコテントウとコカメノコテントウがいます。コカメノコテントウは広島県にはいませんが、ヒメカメノコテントウは草地にいます。どちらもカメノコテントウよりずっと小さく、体長5ミリ程度しかありません。

カメノコテントウは、クルミ類の葉を食べるクルミハムシの幼虫を食べます。5月ごろから成虫が現れ、年に数世代が発生し、成虫で越冬します。



【解説：秋山美文（比和自然科学博物館客員研究員）】

